ぽかぽか

2021年11月発行

63号 ボランティア情報誌 みんなでまちづくり

【編集・発行】
成田市社会福祉協議会
ボランティアセンター
〒286-0017 成田市赤坂1-3-1
TEL 0476-27-8010
FAX 0476-27-1265
HP http://www.naritashakyo.or.jp/
Email volunteer@naritashakyo.or.jp

NARITAの「次世代ボランティア」が大活躍！

次世代ボランティア特集号！

～ボランティアを楽しもう！～

新型コロナウィルス感染症の影響でさまざまな活動が制限される中でしたが、高校生・大学生がボランティア体験を行う「次世代ボランティアスクール」を開催しました。まず、講師の千葉敬愛短期大学 学長 明石要一氏からボランティアについての説明を受け、その後ボランティア先は、受講者が自分の意志で選んで決めました。

「ボランティアは自分が楽しむもの」というお話に今まで持っていたイメージと少し違ったとの声もあり、参加者は新しい発見や貴重な体験ができたようです。

受講者参加型の講義

ドッジボールのルールは一つと思われがちですが工夫すれば、色々なやり方があり「ひとつのルールに縛られずに考えると、もっと参加できる人が増えて、その結果 集団の輪が広がる」というお話が印象に残りました。

<受講者>

いろいろな可能性を広げていきたいな

夏休みボランティア体験

「成田おむすびプレイパーク」での子育て支援や、「乗馬苑」で、障がいのあるお子さんの手助けの体験を行いました。

お子さんが乗馬をする時に両脇に立って見守ります

ボランティアさんありがとう

先輩ボランティアさんからコツをレクチャー

一緒にあそぼ！

ボランティア体験に参加した理由

受講者に質問！

なるほど

★これから社会に出ていく前に対価のない活動をして、自分の時間を誰かのために使うことで、多様性を体感したかった。

★もともとボランティアに興味があり、時間のある学生のうちに思い切ってやってみようと思った。

★就活の為ではない活動がしたかった。

「ボランティア活動振り返り会」を開催
～ボランティアで自分が成長できる～

体験終了後には、グループワークで感想の発表や意見交換を各自宅から参加し、有意義な時間となったので、ここではその内容を紹介します。

Zoom で開催！

司会
大学３年　高柳さん

大学３年　林さん

ボランティア体験の感想

★障がい者をサポートしすぎることはよくないことかもしれないと思いました。手を貸しすぎるとその人のためにならないのだということが、体験して一番強く感じたことです。乗馬のサポートだったので馬（動物）から感じ取れることがあって勉強になりました。（高柳さん）

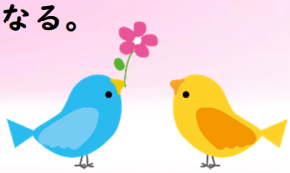
★私は普段子どもとの触れ合いがなく、自分が経験することがないような活動と思い、あえて子育て支援の体験を選びました。体験先では、子どもが自由に遊んでいて、大人が口出しせず子どもの決定を否定しないスタンスで、これはしちゃいけないという言葉は NG でした。教えるのではなく、子どもが自ら学ぼうとしているところに子どもの自主性が育っていくのだと感じました。（林さん）

★ボランティアで子どもにも障がい者にも共通している部分は、人と接するときにその人を尊重することが大事であることです。ボランティアを通して知らなかった世界を知り、いろんな体験をすることで自分が成長できると思いました。（その他参加者）

グループワーク

Q. ボランティアはなんのためにするのか？

★就活のためのボランティアではないと感じている。
★ボランティアをすることで感じられることがたくさんある。それが将来自分のためになる。相対的に自分を肯定していくきっかけになる。
★地域の人や自治体活動に関わる機会を得られ人と人との繋がりの再現。
★人のためではなく自己形成のため、自分のためになる。
無償性、見返りを求めないのがビジネスと違う。



Q. 今、コロナ禍でできるボランティアは？

★人との接触を避けなければいけないので、できるボランティアは限られてくる。その限られた中でも屋外でできるもの、オンライン上でできるものなどが考えられる。
★テレビで見てヒントを得たが、オンラインのアシカショーを水族館が行ったりすると、入院中のお子さんに喜んでもらえるのでは？工夫次第でできることはたくさんある。
★話し合う前は制限されることが多いのかな？と思っていたが、コロナ禍でもできることはあるし、逆に求めている方に活動を広げることができるのではないかと思う。

Q. 50年後のボランティアはどうなっている？

AI 主導はボランティアじゃない？？

★IT・ロボットの活用などが考えられるが、ボランティアはロボットを活用すべきか？　ロボットとの交流が成り立つか？考えてみたが、人と人とのつながりはロボットでは代用できないのではないか。未来は、想像がつかない中でも、技術がどんなに進化して便利になっても、人と人との古い形でのボランティアは残るのではないか、そうあってほしいと思う。
結論 →「**ボランティアは変わらない**」

あとがき

ボランティアスクール終了後に、学業の傍らこれからも活動を続けたいと、個人ボランティアとして2名が登録されました。今後の次世代ボランティアの活躍がとても楽しみですね。